

**平成 29 年度 第 2 回
市民と議会の懇談会概要**

平成 30 年 2 月開催

宮 津 市 議 会

市民と議会の懇談会－結果概要－

(平成30年1～2月開催)

1 班編成

班	構成議員	担当地区
1 班	◎北仲 篤 ○谷口 喜弘 長林 三代 小林 宣明 坂根 栄六	宮津、府中、 養老・日ヶ谷
2 班	◎城崎 雅文 ○福井 康喜 松浦登美義 河原 末彦 安達 稔	上宮津、栗田、 日置・世屋
3 班	◎松本 隆 ○星野 和彦 宇都宮 綾 徳本 良孝 嶋田 茂雄	宮津、由良、吉津

◎：班長 ○：副班長

2 開催日時

日	時	場 所	担当	参加者数
1 月 31 日 (水)	19:00～20:25	城東会館	3 班	11 人
2 月 1 日 (木)	19:00～20:40	福祉教育総合プラザ	1 班	22 人
	19:00～20:30	栗田地区公民館	2 班	30 人
2 月 2 日 (金)	19:00～20:50	養老地区公民館	1 班	10 人
2 月 5 日 (月)	19:00～20:50	府中地区公民館	1 班	13 人
	19:00～20:30	上宮津地区公民館	2 班	19 人
	19:00～20:35	由良地区公民館	3 班	9 人
2 月 6 日 (火)	19:00～20:50	日置地区公民館	2 班	23 人
2 月 9 日 (金)	19:00～20:25	吉津地区公民館	3 班	13 人
計		9 会場		150 人

「市民と議会の懇談会」の概要

開催日時	平成30年2月1日(木) 午後7時00分～8時50分
開催場所	宮津市福祉・教育総合プラザ 第1コミュニティルーム
担当班	1班
出席議員	北仲 篤、長林三代、谷口喜弘、小林宣明、坂根栄六
参加人数	22人
【内容】	<ul style="list-style-type: none">・主要事業の報告、質疑応答 宮津漁師町観光商業センター、おさかなキッチンみやづ、宮津市福祉・教育総合プラザ・意見交換 議員定数等について
【主要事業報告に対する質疑等】	<p>Q：漁師町観光センターの予算は。</p> <p>A：約1億円。</p> <p>Q：舞鶴とれとれセンターのように独自の良さを生かした魅力を差別化した発想はあるのか。</p> <p>A：練り製品づくりの体験コーナーや浜売りなどを考えている。</p> <p>Q：「にっこりあ」について、全国的に子育て包括支援センターがあり妊娠から出産までの相談センターができていの中で、医療との連携を考えてほしい。</p> <p>A：担当部署に伝える。</p> <p>Q：島崎げんきっこひろばが統合され、屋内のみとなったが、幼児にとって大事な水と砂で遊ぶこと。そこでいろいろな力をつける。水と砂を何とかしてほしい。</p> <p>A：担当部署に伝える。</p> <p>Q：観光商業センターの収支計画について議会でチェックしているのか。</p> <p>A：事業者の中の第三者委員会でチェックし、公認会計士を有する指定管理者選定委員会の中で指定管理者が検討される。</p> <p>Q：漁師町の販売内容に宮津で水揚げされた魚とあるが、お魚キッチンと被っているのでは。土日祝日の2階の活用とは。</p> <p>A：浜売り体験施設の設置。今回の整備には入っていないが、2階の活用も今後考えると聞いている。</p>

【意見交換】

○議員定数等に関すること

- ・議員提案は全国的に少ないのか。各党の基本的な考えが異なるのでできないと聞いた。党派を超えてやろうとなっていてほしい。基本条例策定時には、魂は次期だと聞いた。その後どのような努力をしてきたのか。人間のレベルアップ、職能と人間性・品格について努力してもらいたい。立ち往生させることを自慢する議員がいる。子どもがあこがれる職場の一つが議会。経済的安定の議会を提案しているが、落胆している声もある。市議会で気風をつくってほしい。
- ・市議会を考える会の要望は12~14人。できなければその理由を言ってほしい。12人に削減した分2000万円を報酬に充てれば副業しなくてもいい立場になる。
- ・定数削減は人口比だけでは論拠にならない。減らしたからといって活性化するわけではない。行政に反映させること。削減するとチェック機能が弱くなる。委員会構成においても、専門性ではなく数合わせとなっていないか懸念する。現状で頑張ってもらって、人口をこれ以上減らさないように取り組み、人口を増やして報酬を増やすように結び付けるようにすべきで、削減して報酬をあげるのは議論が逆さまである。
- ・委員会に分かれるとさらに少数となる。市民の願いは多岐にわたる。思いを伝える議員は多いほうがいい。届けることができることを誇りに思っては。
- ・議員定数について、言論の府でもあるので多いに越したことはないと思うが、一票の格差は常に問題である。一つの市が多いというものではない。一人当たりの人口が一番宮津市が少なく、14人に定数を減らしても一番下となり、13人にすれば南丹市に並ぶ。三重県尾鷲市、奈良県五條市でも少なくとも議会が動いている。そういったところの視察をしてはどうか。
- ・一人当たりの人口が減っても、細かく活動すればできる。14人でも多い。6人ずつの委員会で、時間配分とか研究すればいいのではないか。とりあえず14人にして視察してどういうことをしているのか研究してはどうか。やり方があるのではないか。

○その他

- ・ミップルの図書館などの改修に当初7億円と聞いていたが、実際は10億円となっている。3億円の増加の理由を議会が説明したのかと疑念をもつ。島崎公園の整備でも、説明会の開催を新聞記者が要求したと聞く。議会はなぜ言わないのか。給食センターにおいても、冷凍食品といていたものから給食センターになった。
- ・自校給食を求める。センター化の協定を結んでから市民に説明会をしている。請願に2,600筆の署名もある。給食甲子園にも出ている。調理員も食やアレルギー対応と丁寧にやっている。全議員に回り説明もした。宮津小から宮津中学校への親子方式は難しいからできないと教育委員会に言われた。

「市民と議会の懇談会」の概要を報告します。

平成30年2月16日

宮津市議会議長 松浦登美義様

1班 班長 北仲篤

「市民と議会の懇談会」の概要

開催日時	平成30年2月2日（金） 午後7時00分～8時50分
開催場所	養老地区公民館
担当班	1班
出席議員	北仲 篤、長林三代、谷口喜弘、小林宣明、坂根栄六
参加人数	10人
<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要事業の報告、質疑応答 宮津漁師町観光商業センター、おさかなキッチンみやづ、宮津市福祉・教育総合プラザ ・意見交換 議員定数等について 	
<p>【主要事業報告に対する質疑等】</p> <p>Q：新図書館への移転後、旧図書館と前尾記念文庫は今後どのようなようになるのか。 有効活用の検討を。歴史の館の駐車場が少ない。立体駐車場があるものの駐車場確保のために旧図書館を駐車場にしてはどうか。丹後郷土資料館もあるが歴史資料館の活用を。</p> <p>A：公共施設マネジメントで方向性は一定整理されている。歴史資料館については、開館に向けての調査費の予算がついている。</p> <p>Q：漁師町観光商業センターについて、大きな金額を計上しての計画となっている。浜町を集客拠点としていたのに、浜町と魅力を分けた形にしないといけないのではないか。浜町パイロット事業は議会でチェックできるが漁師町観光商業センターもチェックをするべき。費用対効果。無駄なことになる。</p> <p>A：練り製品づくりの体験コーナーや浜売りなどを考えている。</p> <p>Q：漁師町観光商業センターのお客さんの導線はどうのようになっているのか。</p> <p>A：漁業会や警察と協議をしている。</p>	
<p>【意見交換】</p> <p>○議員定数等に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・宮津市議会を考える会の構成メンバーと理由は。商工会議所は一つの団体であり、商工業者の経営支援が商工会議所の役目である。 ・伊根町の人口は約2,000人。人口比だけで考えるのはどうか。面積からも。いろいろな視野から考えないといけない。全国的な流れもある。不合理。人口も減る議員も減る。やむを得ない。いろいろな要因がある。減らすには慎重に。16人は一般的には多い。12～14人というところかもしれないが、12人になったとしたら密度が高い市内から出たらどうするかといったことが 	

考えられる。人口の理論もわかるが、減らすにはどうするか。各自治会の毎年の要望の取り上げ方や行政の回答。自治会要望を叶えられるように真剣に汗かいて何とかしている。不便性も考えてほしい。減らし方を考えてほしい。14人。12人は急激。

- ・減らした結果、市は発展したのか。今いる議員が積極的に動いて資質をあげることが先である。議員報酬や期末手当について、人口減、税収も減り歳出としてつらいのではないか。
- ・議員定数と議員報酬は別物である。税収も減るし、近隣市町のこともある。一年365日毎日行っていない中で報酬をにらんだ場合、増額は難しい。期末手当がなぜ議員に出るのか。増やす方法として、期末手当を議員報酬にすればよい。
- ・期末手当について、議員ももらってもよい。職員等全体を考えて、官民格差を考えてほしい。
- ・利潤を追求する民間と比べるのはナンセンス。公務員のレベルが下がれば民間も下がる。

○その他

- ・台風により里波見～長江間は通行止めとなり、緊急迂回路の整備が必要である。府道3つあるのを緊急で行けるように整備してほしい。運動組織をつくって府に要望したい。市に相談しているが、できたときは議会も応援してほしい。
- ・平成18年に京都府予算で学校長寿命化整備費を計上していたと思うが、定時制高校キャンパス制についてどうなのか。組織的な統合なのか。中心部に投資し、周辺部には回ってこない。廃校の利活用を迅速に考えてほしい。

「市民と議会の懇談会」の概要を報告します。

平成30年2月16日

宮津市議会議長 松浦登美義様

1班 班長 北仲篤

「市民と議会の懇談会」の概要

開催日時	平成30年2月5日（月） 午後7時00分～8時50分
開催場所	府中地区公民館
担当班	1班
出席議員	北仲 篤、長林三代、谷口喜弘、小林宣明、坂根栄六
参加人数	13人
<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 主要事業の報告、質疑応答 宮津漁師町観光商業センター、おさかなキッチンみやづ、宮津市福祉・教育総合プラザ ・ 意見交換 議員定数等について 	
<p>【主要事業報告に対する質疑等】</p> <p>なし</p>	
<p>【意見交換】</p> <p>○議員定数等に関すること</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ Q：人口による定数の決まりはあるのか。 A：ない。 ・ 傍聴しているが、議員は勉強している。議員さんを通じて、暮らしやすくなる議論をするためにも多すぎるとは思わない。委員会が3つあったのが2つになった。勉強するのが大変だと思った。人口が少ないからこそ、きめ細かに声を聴いてほしい。多くて面倒がいいほうが良い。なぜ減らしたいのか意図がわからない。 ・ 地域代表から、全体を見る市民代表としてやれば良い。人口が減ると税収が減る。その中で議員定数を維持するのか。また、議員報酬が減ると議員を務めることができるのか。議員定数を減らし、議員全体で市域をカバーすればよい。 ・ 人口の対比表をみて与謝野町や伊根町と比較すると、議員定数も職員数も減らすのは当たり前である。20年返済、浜町、補助金、し尿処理場など自主財源がないのになあなあで決めてどうしようではダメ。議員定数は12名以下にすべき。職員数も減らし財政再建を。 ・ 暮らしに必要な仕事はある。職員・議員を減らすのはどうか。人口減を食い止めるための魅力をどうつくるか。宮津市をどうするかを考えてもらいたい。意見を出し合わないとい前に進まないのでは。議員定数について時期、丁寧な議論を。 	

○その他

- ・道の駅や新図書館について、近くの方はいいが、遠い方の交通費の援助はないのか。シングルマザーの支援の減免とか。
- ・宮津市の予算が少ない。あと 50 億円。(府にいていないのでは。予算をとってくる。)

Q：世界遺産には住民の声が必要。橋立の松をオーナー制にして支援をあおってはどうか。

A：担当部署に伝える。

Q：ケーブル下の交差点において、大雪で押しボタンが押せない。歩道が除雪されていない。

A：現状については、市も府も除雪していない。市は除雪機を貸与し自治会にお願いしている。

Q：除雪業者に雪を置かれる。捨て場は業者で確保を。

A：担当部署に伝える。

Q：除雪について空き家はすかさない傾向がある。

A：担当部署に伝える。

Q：原発は 30km 圏内に入っているが、宮津市議会から声があがってこない。

A：関係条例を制定し、国に議員提案で意見書を提出している。

Q：まち・ひと・しごと創生は KPI で PDCA を回すことになっているが、それ以外の市のいろんな施策の KPI を PDCA ・行政評価をしているのか。

A：決算事業シートで意見をつけるなどして PDCA に努めている。

Q：宮津会館に行くには、立体駐車場への駐車となる。島崎公園が駐車場にならないのか。

A：「おさかなキッチンみやづ」の後ろに多目的（駐車場）の形で整備することとしている。

Q：除雪について宮津市だけが悪い。積雪量を測ること自体ナンセンスである。

A：担当部署に伝える。

「市民と議会の懇談会」の概要を報告します。

平成 30 年 2 月 16 日

宮津市議会議長 松 浦 登美義 様

1 班 班長 北 仲 篤

「市民と議会の懇談会」の概要

開催日時	平成30年2月1日（木） 午後7時00分～8時30分
開催場所	栗田地区公民館
担当班	2班
出席議員	城崎雅文・福井康喜・松浦登美義・安達稔・河原末彦
参加人数	30人
<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要事業の報告、質疑応答 宮津漁師町観光商業センター、おさかなキッチンみやづ、宮津市福祉・教育総合プラザ ・意見交換 議員定数等について 	
<p>【主要事業報告に対する質疑等】</p> <p>Q：まごころ市海側の駐車場が凸凹であるので危険だ。早急に対処してほしい。 A：担当部署に伝える。</p> <p>【意見交換】</p> <p>○議員定数等に関すること</p> <p>Q：議員一人当たりの報酬の他市との比較は。 A：舞鶴市44万円、福知山市41万円、綾部36万5千円、京丹後市38万円である。</p> <p>Q：市政の重要なことを新聞で知ることが多い。市の姿勢として市民への周知が遅い。決定してからではなく決定するまでに市民に周知すべき。例えば、給食センターや図書館など。 A：広報については議会日より、HPで周知をしている。</p> <p>Q：議員定数について考える材料の中身がわからない。要望書自体の資料を提出すべき。 A：配布はしていないが口頭で紹介をした。要望書を基にしたものではなく先入観なしでのご意見をいただきたい。そのご意見をもとに、議員間で議論をしていく。</p> <p>Q：市民の声をどう吸い上げるかが問題で、議員は減らすより増やしたほうが良い。地域選出が減ると一人当たりの仕事が増える。細かなところまで目が届かない。高齢化社会。年金生活者が多くなってきている。多様な意見の反映が必要。 A：議員が地域代表という考えは古いのではないかという意見もある。宮津市民全体の代表である。例えば6人の常任委員では多様な意見が反映できるのか不安である。</p> <p>Q：議会の構成について常任委員会。これでいいのか。産業、建設と福祉が一緒でいいのか。産業・建設と福祉をそれぞれ独立した常任委員会にすれば。 A：昔は3つの常任委員会であった。ご意見として伺う。</p>	

Q：定数が減ると十分な委員会での議論ができないのでは。市民の生活を見ているのか。1人くらいは増やしたほうがいいのでは。

A：定数が減ると委員会運営で委員の負担が増える。これまでは綾部市を基準に議員定数を検討していた。

Q：今回の懇談会の「議員定数について」をテーマにした根拠は。

A：昨年7月から議会活性化特別委員会の中で議論をしていた。

Q：組合議会について、議員定数が減ると構成がどうなるのか。

A：調整が必要になる。市・町の声の届け方は一定議論すべき。宮津市議会の環境組合議員は4人である。

Q：今回の定数の件、要望がでたからか。議会の考えを言うべきでは。

A：本来は議会から提案すべきだと思う。反省する。

Q：唐突感がある。もっと広く準備をしてから開催すべき。拙速である。アライバイづくりの場にならないでいただきたい。

A：16人が限界だという認識でやっていた。18人の時は3常任委員会だったが、16人になり2常任委員会とした。議会運営の仕方にもらみながらやってきた。議会としての権能の発揮できる議員定数を考えることが重要だ。

<意見>

- ・冒頭の考える会からの要望書の内容に疑問。議員の良し悪しを誰が判断し、またその基準があるのか疑問。
- ・議員定数は現状維持でいくべき。議会の役割は、市民の意見を反映し政策をつくることと行政のチェックである。そのためには一定の定数が必要である。

○その他

Q：自治会要望の回答が未だに届いていない。

A：担当者に伝える。

「市民と議会の懇談会」の概要を報告します。

平成30年2月7日

宮津市議会議長 松浦 登美義 様

2班 班長 城崎 雅文

「市民と議会の懇談会」の概要

開催日時	平成30年2月5日（月） 午後7時00分～8時30分
開催場所	上宮津地区公民館
担当班	2班
出席議員	城崎雅文・福井康喜・松浦登美義・安達稔・河原末彦
参加人数	19人
<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要事業の報告、質疑応答 宮津漁師町観光商業センター、おさかなキッチンみやづ、宮津市福祉・教育総合プラザ ・意見交換 議員定数等について 	
<p>【主要事業報告に対する質疑等】</p> <p>Q：観光商業センターと道の駅との関係性、整合性、役割分担は。</p> <p>A：委員会の中では運営者間で調整をして差別化をしていくとの答弁があった。観光商業センターは市が持っている施設の有効利用の観点である。もう一度活性化をして民間の方が運営をしていく。第1次産業の活性化が狙いである。</p> <p>Q：2箇所（道の駅と観光商業施設）になるとお客さんが分散するのでは。道の駅をまとめるべき。無駄な税金をつかうな。二重の投資になる。</p> <p>A：道の駅の要件（国土交通省）不評な道の駅という意見もある。食べる場所がない。なので、連携をしてやっていく。また、委員会においても時間をかけ相当な議論をした。バスの出入りが懸念である。</p> <p>Q：5、6年前、オフサイトミーティングでの意見で、まごころ市、食品センター、干物加工センターを統合すればという意見をした。成功するのか懸念している。</p> <p>A：ご意見として伺う。</p> <p>Q：集客見込み人数、売り上げ、本当に達成できるのか。負の遺産にならないか。また失敗の宮津市にならないか。本当に大丈夫なのか。失敗したでは済まない。施設が中心地から離れすぎである。例えば島崎公園内に整備すればいい。</p> <p>A：ご意見として伺う。</p> <p>Q：図面で、食べることができる席が少ないのでは。団体客がさばけるように席をもっと増やすべきでは。</p> <p>A：他にも席はある。あくまでも案である。指定管理者（運営者）でしっかりやっていく。</p>	

Q：議会として、営業していけるということを確認して判断すべき。

A：委員会の中でも責任を誰がとるのか。というところまで言った。また、運営者はリスクをとって不転の決意でやっている。ご意見として伺う。

Q：成功事例を参考に。フードコートの件で店舗の中ではどこで買ってどの店でも食べられますよという形にすればどうか。また、客単価が上がるよう、夜の営業もやっていくべきだ。

A：ご意見として伺う。

Q：島崎げんきっこひろば、移設により空いた施設の今後の使い方は。

A：空いた公共施設については、公共施設マネジメントで総合的に考えていく。

Q：図書館、島崎公園整備など、市民にとっては突然出てきた感がある。市民の意見を吸い上げながら事業を進めてほしい。

A：ご意見として伺う。

Q：公設市場の後利用は。

A：未定である。

【意見交換】

○議員定数等に関すること

Q：議会の傍聴に行った。議員が提案できる議会にしなければいけない。提言できる議会は当たり前ではないのか。

A：これまでの提案は議員個人が一般質問でやっていた。個人の活動がメインであった。今後は議会として取り組まなければならない。議会として政策提言できるようにしていきたい。

Q：政策ブレーンがない。人口比でみたとき議員の数を減らしてお金をつけるべき。住民参加ができていない。一般の人との乖離がある。住民参加の部分を上手に使っていくべき。また、政務活動にもっと予算を使うべき。

A：議会事務局の充実や、ライブ中継をしていくのも一つの方策だと思う。ご意見として伺う。

Q：これまでから一般質問等で議員提案はしているのではないか。

A：そのとおりであるが、今後は議会としても提案できるようにしていきたい。

Q：予算の提案に対し全部100%可決する。もっとチェックしてほしい。

A：ご意見として伺う。

<意見>

・定数の件、人口が減っているが面積が広い。市民の状況を把握するためには一定数がいるのでは。議員を減らす必要はない。

- 宮津市の規模から考えて多すぎる。今の時期をどう乗り切るか。時代に合わせて戦略的に少数精鋭でやっていくべき。市民は定数が決まらないと次の動きができない。議会としてどう進めていくのか。議会が引っ張ってもらわないといけない。
- 人口だけで議員定数を決めていくのはアンフェアである。面積が違う。各々の自治体で条件が違うので総合的に考えるべき。議会とは住民の要求を反映する役目。また、行政のチェック機能。それを果たすためには一定の人数が必要だと思う。
- 定数は、どんな議会にするのかが問題。

「市民と議会の懇談会」の概要を報告します。

平成 30 年 2 月 7 日

宮津市議会議長 松 浦 登美義 様

2 班 班長 城 崎 雅 文

「市民と議会の懇談会」の概要

開催日時	平成30年2月6日（火） 午後7時00分～8時50分
開催場所	日置地区公民館
担当班	2班
出席議員	城崎雅文・福井康喜・松浦登美義・安達稔・河原末彦
参加人数	23人
<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要事業の報告、質疑応答 宮津漁師町観光商業センター、おさかなキッチンみやづ、宮津市福祉・教育総合プラザ ・意見交換 議員定数等について 	
<p>【主要事業報告に対する質疑等】</p> <p>Q：宮津漁師町観光商業センターの駐車場は。 A：建物の海側に確保。50台くらい止められる。バスをどう扱うか漁師町自治会と協議中である。</p> <p>Q：市街地に投資が集中している。市全体の活性化を考えてほしい。また、議員は宮津市民全体の代表であることを自覚して、市全体のことを考えてほしい。 A：今回の報告事業を選定した理由は、それぞれがこれからの宮津市にとって大事な事業であるため。議員は皆、宮津市全体のことを考えて日々活動をしている。貴重なご意見として伺う。</p> <p>【意見交換】</p> <p>○議員定数等に関すること</p> <p>Q：議員定数の要望書が提出された背景を議員はどのように考えているのか。 A：人口減少の中、人口規模に見合った議員定数を望む市民の方からの声ではないか。また、伊根町もそうだが全国的に地方議会では、議員の成り手不足による議員定数割れ、無投票選挙などが生じている。そういった懸念が背景にあると考える。</p> <p>Q：議員はたくさんの役職をもっていると思うが、現状の16人で負担は感じていないのか。 A：議員個人の活動から議会としての活動に中心が変わってきたように感じる。様々なやり方があると思っている。</p> <p>Q：要望書にある議員定数、12人から14人の根拠はあるのか。 A：宮津市の人口規模や全国の市議会議員定数を勘案し決められたと聞いている。</p> <p>Q：「これからの宮津市議会を考える会」のメンバーは。どうやってメンバーを選んだのか。 A：各種団体の代表者である。</p>	

Q：要望書のとおり定数を減らすのか。

A：今回のご意見を伺ったうえで個々の議員が議論をして決定していく。これまでから宮津市議会は近隣の綾部市を参考にしながら議員定数を検討していた。

Q：議員から出される政策提案の数は年間どれくらいあるのか。

A：提案は一般質問で行っている。また、議会報告会での要望などを議会として市に要望している。さらに、平成28年度からは所管事務調査を行い、政策提言をしている。

Q：「これからの宮津市議会を考える会」は誰がやっているのか。調べると「白壁」という名前が出てきた。どういうことか。

人口割・予算規模で考えると宮津市の議員定数は多すぎる。もっと減らすべき。

A：議会活性化特別委員会を中心にしっかり議論していく。

宮津市では、市民3,000人に議員1人の人口割でいくと定数は6人になる。しかし、本当に6人で議会として成り立つのか議論が必要である。

18人の時には3常任委員会であった。現状は2常任委員会である。議員定数を減らした場合の議会のあり方について多面的に議論していく。

Q：今日出席の議員個々の議員定数に対する考えが聞きたい。

A：今回は議会として来ているので、個々の意見は控えたい。

Q：議員全員が自分の選出地区だけでなく、各地域の課題を考えてほしい。

A：これまでは議会報告会という形で行ってきた。その時は各議員の出身地域だけでなく、全市民的に市民の皆様のご意見を聞こうということで進めてきた。今回も含め、これからは「市民と議会の懇談会」として進めていきたい。その中で各地域の課題を取り上げ、意見交換をし、議会として市に提案していけるようにしたい。

Q：議会運営費の内容は。

A：各常任委員会での視察等の費用である。視察報告会のやり方を今回から有効性のあるよう変更した。

Q：委員会の行政視察報告書はホームページ上で見せていただけるか。

A：現在、ホームページ上には掲載しておらず、情報公開請求の手続きをとっていただくことになる。概要は、議会だよりに掲載している。

Q：自治会要望を議員全員で共有しているのか。

A：自治会要望の内容は全議員では共有できていない。委員会の中で、自治会要望についてはできるだけ応えるようにと、その都度言っている。

<意見>

- ・議員定数、増やすことも考えるべき。例えば、ボランティアでもっともっと多くの議員で夜に議会を開催するなど、発想の転換が必要。よりよくなる方向で考えてほしい。
- ・定数は、宮津市を良くすること、良くできるやり方との兼ね合いで考えていくべき。財政は後から考えるべき。積極的に議会としての姿勢を示してほしい。
- ・例えば、北部にはこういう課題がある、そのためにどういった施策を打つべきかなどの、積極的な懇談会になるようにしてほしい。
- ・市民が根元である。市民は会議の傍聴に行くべきだと思う。
- ・アンケートに関して、この場では性急すぎて書けない。

「市民と議会の懇談会」の概要を報告します。

平成30年2月7日

宮津市議会議長 松浦登美義様

2班 班長 城崎雅文

「市民と議会の懇談会」の概要

開催日時	平成30年1月31日（水） 午後7時00分～8時25分
開催場所	城東会館
担当班	3班
出席議員	松本隆・宇都宮綾・星野和彦・徳本良孝・嶋田茂雄・松浦登美義
参加人数	11人
<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要事業の報告、質疑応答 宮津漁師町観光商業センター、おさかなキッチンみやづ、宮津市福祉・教育総合プラザ ・意見交換 議員定数等について 	
<p>【主要事業報告に対する質疑等】</p> <p>Q：保健センター機能も宮津阪急ビル内に入ったが、旧保健センターの再利用はどうなっているのか。</p> <p>A：現段階では協議中である。宮津市公共施設マネジメントの中で、次年度以降の予算に向け、その目的や用途について協議されることになる。</p> <p>Q：「にっこりあ」の利用状況は。</p> <p>A：開設した昨年（平成29年）の11月27日から12月27日の1カ月間に宮津市民の方で大人951人・子ども1,117人、また、与謝野町の方で大人467人・子ども579人の利用があり、北部の近隣市町の利用者を合わせ、大人2,160人・子ども2,489人で利用者合計が4,649人と多くの方が利用されている。</p> <p>Q：阪急電鉄との20年契約ということだが、その後の利用についてはどうなるのか。</p> <p>A：阪急電鉄と宮津市の契約で、市からの家賃の支払いはなく、その見合いとして阪急電鉄からは固定資産税を徴収しない。また、契約更新時に協議することになる。</p> <p>Q：図書館施設は、当初7億円ほどの改修費で新設するより安くなると聞いていた。説明では10億円かかっているようだが、3億円の差額はどうなっているのか。</p> <p>A：図書館だけのスペースではなく、宮津阪急ビルの3階・4階フロアで約10億円の改修事業費になった。</p> <p>Q：3階の図書館から移動図書館車（はまなす号）に本を積み込む際、「さとう」の一般車両が出入りするがスムーズに行えているのか。</p> <p>A：施設のバックヤード側のエレベーターを使用している。</p>	

Q：観光商業センターは「おさかなキッチン」と同じような内容になるのか。

A：おさかなキッチンは道の駅のエリア内にある店舗の考え方である。一方、観光商業センターは、まちなかを巡る導線とした施設の位置づけになる。

Q：観光商業センターの駐車場については、バスなどが入るのに狭いのではないか。

A：道路幅の関係があり、法令上、大型バスが進入できる右折レーンなど確保できない。

【意見交換】

○議員定数等に関すること

Q：議員定数が14人になるのか。

A：今回の各地区での「市民と議会の懇談会」でいただいたご意見を参考にし、最終的には各議員の判断になっていく。

Q：議員定数を増やすのはよいが、減らすのは自分の首を絞めることになるのではないか。宮津市議会は人口比において府内でも一番議員が多いことになる。一人あたり人口比3,000人としたとき6人程度になる。それは極端な例としても、今の定数は多いように思う。

また、定数を減らす時に議員がしっかりと活動ができるようにそれに見合う報酬もきちっと確保すべきではないか。

A：二元代表制として、市民により直接選挙で選ばれた市議会議員は、議員それぞれが住民の代表者であることを自覚するとともに、多人数による合議制の機関としての市議会を構成し、もう一方の独任制の代表者である市長との適切なる緊張関係のもと、与えられた権限を十分に活用し、住民自治の実現及び市民福祉の向上を図ることを最大の目標とする。

議員は、1,000人に1人だからいけないとか、3,000人に1人だからよいという判断ではなく、議会はいろんな考えを持った人が集まって様々な議論を交わすことが大切だと思う。市民の声を代表して意見等を交わすことが責務であり、職責を全うすることがあるべき姿だと思う。

Q：議会として本当に議員定数を減らせるのか。

A：平成27年12月定例会で議会活性化特別委員会を設置し、議員定数についても委員会の中で議論していくこととした。昨年7月31日から8月3日の間で諸団体と意見交換会を開き、議員定数に限らず全体的な議会のあり方について意見を吸い上げており、昨年からの流れの中で議員定数についても議論を交わしている。

Q：議会費の占める割合が1.4%だが、この割合は他市と比較して高いのか。

A：この割合には議員報酬だけでなく、議会運営費や議会事務局費も含まれる。議員定数を削減しても、最低限の事務局職員(現在4人)は必要。全体の総予算の割合として議会費が高いことにはならない。

〈意見〉

- ・今の16人の議員が必要とするならば、なぜそれを減らすと言われるのか。歳出のことだと思う。16人であれば今の歳出で頑張っていたかねばならないし、定数を減らして歳出を抑えるのか、定数はそのまま歳出（報酬）を抑えるかどちらかの判断が必要である。
- ・今、宮津市の発展を真剣に考える時ではないのか、そのための議員が何人必要かということを考えていただきたい。
- ・議員は市民の声を吸い上げ、じっくり話を聞くことが大事になる。今よりも議員の数が減れば、ますます市民の声が届かなくなる。会派も不要だと考える。定数削減には反対する。
- ・住民との結びつき、住民の声をどう反映するか。宮津市も人口減少が著しいが、過疎地域にとって人口だけではなく面積も関係してくる。また、過疎だからこそ住民の意見が反映しにくいこともある。議員の数が宮津の再生にどうつながっているかを常に意識しながら定数を議論していただきたい。
- ・議員を減らして報酬を上げると、兼業しなくても議員活動に専念できる。
- ・議員活動が見えてこないから、議員定数削減の声が上がる。
- ・今の市議会は、政党色、与党・野党色が濃く、市民感覚を持ったフリーの議員が少ない。「議会だより」は良くなったが、集落の意見を吸い上げる議員を増やしてほしい。

○その他

Q：公共バスでは200円バスで全ての人を対象としての割引制度があるが、鉄道(丹鉄)では割引がない。多額の予算を入れているが、市民のためにその予算を何に使えばよいのかを考えていただきたい。

A：持ち帰り報告する。

Q：地方創生のイベント事業だが、地元へ落ちるお金が0.1%と出ていた。本当に地元の業者を励ます予算執行になっているのか。企業誘致が行われているが、これが地方創生につながっているのか気になる。

A：地方創生関連事業は、地元が元気になって地域の中で持続的にやっていける事業でないといけない。派手なイベントのみで終わるのでは、本来の地方創生につながらないと思う。

「市民と議会の懇談会」の概要を報告します。

平成30年2月16日

宮津市議会議長 松浦登美義様

第3班 班長 松本隆

「市民と議会の懇談会」の概要

開催日時	平成30年2月5日（月） 午後7時00分～8時35分
開催場所	由良地区公民館
担当班	3班
出席議員	松本隆・宇都宮綾・星野和彦・徳本良孝・嶋田茂雄
参加人数	9人
<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要事業の報告、質疑応答 宮津漁師町観光商業センター、おさかなキッチンみやづ、宮津市福祉・教育総合プラザ ・意見交換 議員定数等について 	
<p>（主要事業報告に対する質疑等）</p> <p>Q：宮津阪急ビルに市立図書館が移転して、利用者が増えているのか。</p> <p>A：図書館の個人貸出人数は、平成28年度では19,566人、1日平均71人の利用があった。宮津阪急ビルに移転した11月27日から12月27日までの1カ月間に3,872人の利用があり、1月4日・5日の2日間では426人が利用されている。また、高校生などの利用も大変多くなっている。</p> <p>Q：観光商業センターで扱う魚と道の駅「おさかなキッチン」で扱う魚が、同じ地元で水揚げされた魚を使用されているのであれば何が違うのか。</p> <p>A：水揚げされた魚は、漁協でセリをする魚と、少量で漁協に持って行かず自売りする魚があり、観光商業センターでは地元漁師町の漁師がとった魚を直接扱って食べていただける。また、おさかなキッチンでやっていない七輪焼きを提供するなどバッティングしない形で、あちこち立ち寄ってもらい、滞在時間を長くして市内で魚を食べていただく流れにつなげていきたい。</p> <p>Q：観光商業センター施設改装に係る事業費はいくらかかっているのか。また、2階部分の使い道はどうか。</p> <p>A：整備計画に係る事業費については、平成29年6月定例会で1億860万円の予算が提案されたが、地元自治会への事業説明や進捗報告、駐車場の確保や道路整備及び交通誘導対策など地元からの意見が多く出ていることから附帯決議を付け、9月定例会で解除したもの。また、2階部分の改装は、今のところ考えていない。</p> <p>Q：観光商業センターの入り込み客数を年間、約7万8,000人と見込まれているが、1日当たり200人以上になる。本当に望めるのか。可能性の低いものよりも「由良の足湯」に注力してほしい。</p> <p>A：市の考え方としては、現在、隣得天橋立市場の食堂の実績を加味し、観光商業施設のリニューアル</p>	

アルと客に提供する内容を高め7万8,000人の目標になるとの考えを示しているが、詳細内容など含め、厳しい見方をしている。

【意見交換】

○議員定数等に関すること

Q：議会活性化特別委員会と「これからの宮津市議会を考える会（以下、考える会）」が意見交換会をされた中で、「議員の定数が減って質が向上するとは思わない。それは議員が努力すべきことである」と述べられているが、これに対して、考える会から、定数が減れば質の高い議員ができる根拠や理由が示されたのか。

A：考える会からの意見は、これだけ議員がいなければ議会運営ができないという見方を変えるべきであり、「議員の数が減っても減らなくても自らが努力をしてもらう。議員活動を4年間頑張ってもらったら質も高くなるし信頼も得られる、議員が自ら考えるべきこと」などを示された。

Q：考える会からの意見は、宮津市の財政難が、議員定数の削減の理由として挙げられているのかどうか。

A：宮津市財政の中で極めて議会費が高いのではなく、財政難が定数削減の考え方には結びつかない。議員としての質の向上を示された。

Q：考える会から出されている「少数精鋭で質の高い議会」とはどういうことか。また、優秀な人材が立候補できる環境というのはさっぱり理解できない。金を目当てに議員になる人が出てくるかもしれないし、定数削減と優秀な人材とは筋違いと思う。宮津市の定住人口が増えることを考える議員を望みたい。また、定数が削減されることで一人一人の議員の負担が多重になるのではないか。また、常任委員会の産業建設福祉委員会から福祉を独立させ、福祉に注力すべきだと思う。

A：議会のあるべき姿、議会の権能・機能を果たすためには、人口構成とよく似た形をとらないと若年層から高齢者まで、いろいろな人から様々な意見を吸い上げ、議論する場所が議会である。定数に正しい正しくないということはない、市民の声を聞くことが大事になる。

Q：市議会業務を現在の議員定数でこなしていけるのか。議員として、今の仕事が忙しいと感じるのか。

A：議会改革により努力をしてきたこともあり、これまで以上に忙しい。議会改革度ランキングでは1,347議会中217位と全国でも高いレベルにあり一定の評価を得ているが、市民には業務が見えないこともあり評価されていない。今後、定数が減ったとしても業務が減ることはない。

Q：現職議員は、今の定数をどう思われるのか。

A：各種団体の意見もあるが、その団体に所属する全ての会員の声を基に反映された意見でない限りは、このように市民の方の意見が最も大事になってくる。決まった定数がどうであろう

が、市議会業務を果たしていくことが議員のあるべき姿勢だと思う。

〈意見〉

- ・人口減が議員定数を減らす一つの要因にはなるが、それだけで定数を見直すというのは理由にはならない。単純に人口比で定数を決めるのは少し乱暴ではないか。人口減ということだけで決めるのはいかがなものか。議会の本来あるべき役割として議員定数を決めるべきと思う。一つは、市民の意見や状況を聞いて反映させること。それを持ち寄って政策に活かしていくことになる。それを持ち寄るためには、多様な考えを持った議員がそれぞれの立場からいろいろな意見を出し合うことが大事になることから、今の定数を削減すべきでない。二つ目に、議員は行政を監視し評価しチェックする役割があり、それをいろいろな角度からチェックする役割の議員が必要になることから定数を削減すべきでない。
- ・近隣の市で議員1人当たり3,000人で、宮津市は1,500人になる。近隣と比較して他市のできるのであれば宮津市もできると思うが、そこそこの数字まで近づけるべきではないのか。各地区に議員がいなくても、議員が活動すればよいのではないのか。

「市民と議会の懇談会」の概要を報告します。

平成30年2月16日

宮津市議会議長 松浦登美義様

第3班 班長 松本 隆

「市民と議会の懇談会」の概要

開催日時	平成30年2月9日（金） 午後7時00分～8時25分
開催場所	吉津地区公民館
担当班	3班
出席議員	松本隆・宇都宮綾・星野和彦・徳本良孝・嶋田茂雄・松浦登美義
参加人数	13人
<p>【内容】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・主要事業の報告、質疑応答 宮津漁師町観光商業センター、おさかなキッチンみやづ、宮津市福祉・教育総合プラザ ・意見交換 議員定数等について 	
<p>【主要事業報告に対する質疑等】</p> <p>Q：保健センターが宮津阪急ビル内に移転したが、今後の旧保健センターの使い道はどうか。</p> <p>A：宮津市公共施設マネジメントの中で、全体的な施設のあり方について検討し、今年度中に示されると思う。</p> <p>Q：総合プラザ内の調理室を食生活改善事業などで使用する場合、スペースが小さいため2回に分けて使うことになる。各種団体から市長に申し入れているが、旧保健センターの調理室も使用できるようにしてほしい。</p> <p>A：市には報告がいつている。今後、対応が可能な部分から検討され改善されることになる。</p> <p>Q：観光商業センターの収支計画はどこで見ることができるのか。</p> <p>A：民間構成団体の指定管理の事業者になる。</p> <p>Q：観光商業センターでは宮津市がいくらの事業負担をし、いくらの収入が入ってくるのか。</p> <p>A：施設改修費の負担が1億860万円になり、指定管理者が利用料金を徴収していくことになる。市がこの施設で利益を上げる事業ではない。また、指定管理者の運営で赤字が出たとしてもその補てんはしない。考え方として、遊休資産の活用と観光客の宮津市内での滞在時間を長くするため、浜町の「道の駅」から文珠までの間で観光客が立ち寄り食するという導線を考えたもの。</p> <p>Q：「にっこりあ」ができ多くの子ども達が遊びに来られる。無料で利用できることはありがたいが、遊具も頻繁に使うと壊れ、そこで改修予算が必要になってくる。宮津市の費用負担で行っているの、せめて市外利用者からの少額の利用料徴収も考え、今後の運営費に活かしていけないか。</p> <p>A：持ち帰り報告する。</p>	

Q：漁師町の観光商業センターにバスが入るようにしないと年間7万8,000人を呼べないのではないか。民間とシビアなマーケティングを行う必要があると思う。

A：道路幅の関係があり、法令上、大型バスが進入できる右折レーンなど確保できない。地元自治会への事業説明や進捗報告、駐車場の確保や道路整備、交通誘導対策など地元からの意見が多く出ていることから平成29年6月定例会で附帯決議を付けた。その後、運営主体の明確化等、附帯決議の内容が履行されたと認め、9月定例会で解除した。

【意見交換】

○議員定数等に関すること

Q：他の行政の人口比を参考にすれば12人ほどの定数が妥当ではないか。

A：人口だけを対象に定数を決めるのではなく、議会はいろいろな政党や立場で選出された議員で、政策面や予算執行において、様々な意見を交換し合うことが大切だと思う。

Q：議会の役職、配属について、たくさん所属している議員とそうでない議員がいるが、この差は何か。

A：各会派で所属委員会の委員等を選出しており、会派の構成人数の影響もある。また、常任委員会の委員長、副委員長の任期は1年である。

Q：議員は年金もない。また、子育て世代の議員は生活面でお金もかかる。生活保障がないと優秀な人材が確保できない。定数を減らすのであればその分報酬も考えてはどうか。

A：報酬については、これまでもそうだが、特別職報酬等審議会に委ねることになる。

Q：委員長や副委員長をされていない議員について、その分定数を減らしても職務が遂行できるのか。また、自分の仕事と兼業でやっている議員もいるが、議員一本でやっていこうという方に委員長など受けていただいて宮津市の活性化のために頑張ってもらいたいと思う。

A：現在は、議会改革や所管事務調査及び報告会など議会として多くの職務がある。兼職の議員はいるが、議会の職務を最優先で全うしている。

<意見>

- ・若い有能な方の立候補と要望書の中にあるが、若い方の年収がどれくらいかと考えたとき、議員になれば報酬が500万円以上もらえることになる。一般の若い方でそれほど年収のある人はいない。

- ・ただ定数を減らせばよいというのではなく、広い面積を持つ宮津市であるが故に、住民の声をより聞けるように各地域から1人の議員が必要ではないか。また、市街地は人口を抱えていることから複数の議員が必要と思う。

- ・民主主義の原則はどれだけたくさんの声を拾い上げていけるかということだと思う。力を持った人だけが意見を通す場ではない。今の議員は勉強も活動もしていると思うが、報酬は上げる

必要はないと思う。宮津市の平均年収が250万円と聞くが、それと比較すると議員報酬530万円は高いと思う。定数は現状のままで良い。

○その他

Q：竹資源の事業は終わりなのか、多額の予算を投資しているのでしっかりしていただきたい。

A：先週、産業建設福祉委員会を開き、本件について、理事者からヒアリングを行った。サンコーなど委託し継続して行っている。仕事内容については民間に任せており、市は関わっていない。事業としての費用対効果を議会でも質したが、民間に委託する前の年間売り上げは500万円、粗利益が▲2,000万円で、総投資額は約6億円、宮津市の負担は約1億円となっているが、近々明るい報告ができるとの回答があった。

「市民と議会の懇談会」の概要を報告します。

平成30年2月16日

宮津市議会議長 松浦登美義様

第3班 班長 松本隆